

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (南ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoynoCd=2372400552-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年 12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新たに入居された方が畑が好きだということもあり、今年度も畑の作業に力を入れています。収穫の時期には支援学校の方も一緒に参加して下さり収穫を行ったりもしました。街中から離れた郊外ではありますがその分、自然環境には恵まれており、苗付け→水やり→収穫→調理→実際に食べるという全てのポイントで利用者様と関わって頂いています。またピアノが弾ける入居者様もあり、日常的にピアノの音が違和感無く流れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅が点在する高台の上に事業所が位置している。回廊するウッドデッキやモダンな外観の平屋建て、緑豊かな庭や畑が広がる佇まいはリゾート地を思わせるような雰囲気である。職員は、「入居者と「共に生きる」を信条に、入居者の趣味や今やりたい事などを日々の生活に活かし、喜びや自信に繋げるようなケアに心がけている。地域の神社の祭礼や盆踊りなど入居者は昔を懐かしみながら祭りを楽しんでいる。養護学校中学生との菜園の収穫体験や学校祭の参加などを通して交流を深めたり、継続的なセラピー犬の来訪で心とむ機会もある。菜園のボランティアや職員と一緒に、野菜の植え付けや世話、収穫をし、新鮮な食材と一緒に調理して食卓を賑わしている。また、入居者の意向を取り入れた、手作りおやつや行事食は、昔の記憶や思い出を呼び起こし、懐かしみながら和気あいあいと楽しんで食している。入居者の弾くピアノに合わせて歌を歌ったり、野鳥の鳴き声や四季折々の変化を感じるウッドデッキで風や陽の光を感じながら散歩を楽しんだりして穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の基本理念に応じて、地域との結びつきを大切にしていきたいと考えてはいるが全職員との共有は意識付けを含めまだ不足している状況である	理念を目に付きやすいホームの玄関フロアに掲示している。毎月合同会議で理念にそって話し合い、日常のケアについて共有理解を深め、偏りのないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやお祭りに参加している。また当番制で回ってくるゴミ収集場の清掃当番も利用者様も一緒に実施している	町内会に加入し地域の情報を入手して、地域のゴミ当番に参加している。盆踊りや祭礼、郷土の作家の「ごんぎつね」を題材にした作品を出展したり、野菜の収穫を中学生と行ない交流を深めている。散歩や買い物に出掛け、地域の人と挨拶を交わしたりして日常的な繋がりを温めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談等にて認知症の方やご家族の相談に応じさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からだされた要望がある場合は、その容貌を実行すべく職員間で話し合い、サービスに反映できるようにしている	入居者家族、民生委員、行政、法人職員の出席を得て2か月に1回開催している。事業所の報告や地域との情報交換、意見交換が活発に行われている。プロジェクターで行事報告をし、出席者に喜ばれている。提案や意見等はカンファレンスで協議し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、アドバイスを受けている	2か月に1回開催される市主催の在宅ケア推進会議に積極的に参加している。認定申請書類等提出時に、行政の担当者と相談や情報交換を行い協力関係を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行われている内部研修に参加している	法人の接遇委員会で作成した、「言葉の言い換え集」を基に事業所内で勉強会を行い意識を高めている。安全性に配慮し門扉を施錠している。転倒防止や起き上がりの補助としてのベットの柵や足元センサーを設置し安全を確保している。	安全性に配慮しケアの中で必要とされる事項については、家族への説明に加え、必要とされる段階で同意書も得、入居者の意向や尊厳を尊重した拘束感のないケアに繋げる努力を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行われている内部研修に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修を受ける機会は設けられているが活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や、介護保険制度の改定時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては、担当職員に関わらず、意見・要望をその都度聞きだし共有し運営につなげている。家族に関しては運営推進会議や面会時に意見を伺っている	入居者からは日常の会話やケアの中で把握している。家族からは面会や行事等の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。運営推進会議情報で家族に情報を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正式に意見を聞く場を設けてはおらず、反映させられてはいる状況である。	日常の業務の中で随時要望や提案を聞き、カンファレンスの中で話し合いをして運営に反映させている。ユニット会議の情報は、リーダーからの報告があり、必要に応じて検討し業務に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員それぞれの課題や目標に対して、評価やアドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知多学園内に行われる研修に新人職員		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前面接を行い、本人の状況や要望を把握し、個人記録表に記載し、各職員へ周知している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族・本人の要望をお尋ねし、個人記録表に記載し、各職員に周知をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の契約時等で自事業所で何をして欲しいのかを明確にしてケアプランに反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な雰囲気大切に、家庭で生活している時と同じ感覚でいてもらえるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を依頼している。利用者様への生活のアドバイスをご家族から頂くなどをして家族と利用者との絆が維持できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来所は少ないが、地域の支援学校との交流や板山公民館でのクラブの方が継続的に来訪することで馴染みの関係がつけられるように努めている	入居前の生活歴の聞き取り、ケアに活かしている。買い物や外食に行く店は新しい馴染みとなっている。習字を生かした作品作り、日常奏でるピアノ、お経、花壇や畑作業など培ってきた経験を日常生活で活かすようにして、これまでの経験や馴染みの場所、人との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者人間関係が良好に保たれるように食事場所等の配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、御家族から状況報告を伺い、必要時にアドバイスを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で希望や意思を聞いて介護日記に記入して対応できるようにしている。	傾聴の姿勢を基本として、日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。思いの表出の少ない入居者については表情やしぐさから把握する様に努めている。職員間で日常的に情報交換してケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や、家族の面会時に情報の収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて利用者の状況を把握し、何か気になる事があればカンファレンスなどで検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回カンファレンスを行い、入所者や家族の意見や要望を反映できるように検討し、状況により介護計画を見直している	入居者の意向を聞いたり日常の様子を観察し、家族の意向等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。6か月に1回の定期見直しや随時見直しをし、家族に内容を伝えている。どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ユニットにある連絡ノート、全職員間の共通ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望や状態の変化に応じた対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭礼・盆踊り・文化祭などの地域行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3週間に1回の主治医の定期往診時に、本人の様子や要望を伝えている。また必要時には定期以外でも往診をお願いして適切な医療ができるように努めている	入所時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。内科の受診は3週間に1度主治医による診療を受けている。また、家族の相談にも応じている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常日頃から看護師へ状況報告をして指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、家族や入院先の地域連携室と密に連絡を取り、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した場合の対応についての要望を家族から得ている。また入所後の利用者様の状況変化の際に、再確認するようにしている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように日頃から研鑽を重ねている。看取りの対応は、職員のメンタルケアも含めて法人内で確立されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について消防署の訓練を受け学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を実施して	昼間、夜間を火災を想定した訓練を消防署の立会いのもと年2回実施して講評も得ている。訓練時の課題はすぐに検討し運営に反映している。地域住民の参加はないが、必要に応じて手助けが得られるように話がされている。備蓄は、水と食料は3日分備えてある。	水や食料等の備蓄の他に、衣類や毛布、救急箱等避難時の持ち出し品のリスト化や置き場所の検討を願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格否定になりかねない言葉かけや振る舞いがないようにしている。接遇委員会発信の「言葉の言い換え集」等を活用している。	傾聴の姿勢を基本として、「言葉の言い換え集」を活用して、入居者の人格や誇りを損なわないように配慮しながらケアをしている。また、やりたい事や出来る事などは自分で行うように見守をしながら、満足感や達成感に繋がるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定時の時間というのを細かく決めることをせずに利用者様個々の時間に合わせて生活して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で利用者様ごとの要望を優先し、業務中心とならないように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所味に、自宅で使用していた衣類やなじみのある品物を持ってきて頂き、家庭を少しでも再現できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の野菜を使用してる。食材の下準備から参加できる方は参加してもらっている。	入居者の希望を取り入れた献立や、畑で収穫した野菜を食材にして、手作りの食事を用意している。入居者は、買い物や調理、盛り付け、配膳や食器洗い等出来る事を職員と一緒にやっている。手作りおやつ、おせちや赤飯、おはぎ等の行事や季節を感じる料理作りを取り入れ、食べる楽しみが持てるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事背狩猟を把握している。また法人の管理栄養士に相談をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔清拭を行っている。年に1度ではあるが歯科衛生士を講師に招き、口腔ケアに対する研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として取り組んでいる。排泄チェック表を活かして個々の排泄パターンを把握するように努めている。	座位で排泄できるような支援に心がけ、一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、きめ細かなケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヨーグルトを提供したり、水分を多めにとって頂くように心掛けている。便秘日数を把握し、下剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の状況により機械浴・個浴での対応をしている。週3回の入浴にこだわりをもって	週3回を基本に午前、午後の時間帯で希望に合わせて入浴をしている。希望により夜間の入浴や身体の状況に合わせて個浴、機械浴で対応している。季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでいる。入浴を拒む場合には、声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、本人の訴えがあった時や体調不良時に居室で安静を保ったり、リビングでもソファで横になってもらうなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡帳を用いて薬の変更がある時は注意する旨を記入し周知を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれのADL、生活歴等を参考にし、その方が生活の中で役割を発揮できる場面を作るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	坂も多く、散歩をすることは難しいが、ウッドデッキで日々の散歩を楽しんでもらっている。畑に出て収穫や草取りをしてもらっている。休息用のベンチを用意して座って眺めたりできるように配慮している。	天候の良い日には四季の移ろいを感じながら職員と一緒にウッドデッキを散歩したり、ティータイムを楽しんでいる。また、敷地内の畑での作業、野菜、木の実、果物を楽しみながら収穫している。彼岸花等の名所巡り、空港の見物などに出かける機会もある。食材の買い物も欠かせない外出となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、現金の自己管理をしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りされる方はいないが、利用者の希望に応じ、電話を取り次ぐ等を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では季節感ある掲示物を飾ったりしている。また利用者様がつくられた作品を掲示するなどしている。	食堂と居間がワンフロアの共有スペースになっており、入居者の動きや気配が良く見渡せるようになっている。壁には季節に合わせた作品が飾られている。居間のソファにゆっくり腰を掛けテレビを見たり、入居者が弾くピアノに合わせて歌を唄う事を楽しんでいる。ウッドデッキは、散歩をしたり、季節の草花やメダカを飼育できるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のその時の心境の変化に対応してリビングでの座る場所を変えてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から愛用されている物があれば持ってきて頂き、居心地の良い環境づくりに努めている	和室、洋室とがあり、自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り、居室の扉に名前を付けたり、トイレを知らせるプレートを設置している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (北ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigvosvoCd=2372400552-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成27年 12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新たに入居された方が畑が好きだということもあり、今年度も畑の作業に力を入れています。収穫の時期には支援学校の方も一緒に参加して下さり収穫を行ったりもしました。街中から離れた郊外ではありますがその分、自然環境には恵まれており、苗付け→水やり→収穫→調理→実際に食べるという全てのポイントで利用者様と関わって頂いています。またピアノが弾ける入居者様もあり、日常的にピアノの音が違和感無く流れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅が点在する高台の上に事業所が位置している。回廊するウッドデッキやモダンな外観の平屋建て、緑豊かな庭や畑が広がる佇まいはリゾート地を思わせるような雰囲気である。職員は、「入居者と「共に生きる」を信条に、入居者の趣味ややりたい事などを日々の生活に活かし、喜びや自信に繋げるようなケアに心がけている。地域の神社の祭礼や盆踊りなど入居者は昔を懐かしみながら祭りを楽しんでいる。養護学校中学生との菜園の収穫体験や学校祭の参加などを通して交流を深めたり、継続的なセラピー犬の来訪で心とむ機会もある。菜園のボランティアや職員と一緒に、野菜の植え付けや世話、収穫をし、新鮮な食材と一緒に調理して食卓を賑わしている。また、入居者の意向を取り入れた、手作りおやつや行事食は、昔の記憶や思い出を呼び起こし、懐かしみながら和気あいあいと楽しんで食している。入居者の弾くピアノに合わせて歌を歌ったり、野鳥の鳴き声や四季折々の変化を感じるウッドデッキで風や陽の光を感じながら散歩を楽しんだりして穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の基本理念に応じて、地域との結びつきを大切にしていきたいと考えてはいるが全職員との共有は意識付けを含めまだ不足している状況である		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやお祭りに参加している。また当番制で回ってくるゴミ収集場の清掃当番も利用者様も一緒に実施している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談等にて認知症の方やご家族の相談に応じさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からだされた要望がある場合は、その容貌を実行すべく職員間で話し合い、サービスに反映できるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、アドバイスを受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行われている内部研修に参加している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行われている内部研修に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修を受ける機会は設けられているが活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や、介護保険制度の改定時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては、担当職員に関わらず、意見・要望をその都度聞きだし共有し運営につなげている。家族に関しては運営推進会議や面会時に意見を伺っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正式に意見を聞く場を設けてはおらず、反映させられてはいる状況である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員それぞれの課題や目標に対して、評価やアドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知多学園内に行われる研修に新人職員		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前面接を行い、本人の状況や要望を把握し、個人記録表に記載し、各職員へ周知している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族・本人の要望をお尋ねし、個人記録表に記載し、各職員に周知をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の契約時等で自事業所で何をしたいのかを明確にしてケアプランに反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な雰囲気大切に、家庭で生活している時と同じ感覚でいてもらえるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を依頼している。利用者様への生活のアドバイスをご家族から頂くなどをして家族と利用者との絆が維持できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来所は少ないが、地元の支援学校との交流や板山公民館でのクラブの方が継続的に来訪することで馴染みの関係がつけられるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者との人間関係が良好に保たれるように食事場所等の配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、御家族から状況報告を伺い、必要時にアドバイスを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で希望や意思を聞いて介護日誌に記入して対応できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や、家族の面会時に情報の収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて利用者の状況を把握し、何か気になる事があればカンファレンスなどで検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回カンファレンスを行い、入所者や家族の意見や要望を反映できるように検討し、状況により介護計画を見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ユニットにある連絡ノート、全職員間の共通ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望や状態の変化に応じた対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭礼・盆踊り・文化祭などの地域行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3週間に1回の主治医の定期往診時に、本人の様子や要望を伝えている。また必要時には定期以外でも往診をお願いして適切な医療ができるように努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常日頃から看護師へ状況報告をして指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、家族や入院先の地域連携室と密に連絡を取り、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した場合の対応についての要望を家族から得ている。また入所後の利用者様の状況変化の際に、再確認するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について消防署の訓練を受け学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格否定になりかねない言葉かけや振る舞いがないようにしている。接遇委員会発信の「言葉の言い換え集」等を活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定時の時間というのを細かく決めることをせずに利用者様個々の時間に合わせて生活して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で利用者様ごとの要望を優先し、業務中心とにならないように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所味に、自宅で使用していた衣類やなじみのある品物を持ってきて頂き、家庭を少しでも再現できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の野菜を使用してる。食材の下準備から参加できる方は参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事背狩猟を把握している。また法人の管理栄養士に相談をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔清拭を行っている。年に1度ではあるが歯科衛生士を講師に招き、口腔ケアに対する研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として取り組んでいる。排泄チェック表を活かして個々の排泄パターンを把握するように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヨーグルトを提供したり、水分を多めにとって頂くように心掛けている。便秘日数を把握し、下剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の状況により機械浴・個浴での対応をしている。週3回の入浴にこだわりをもって		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、本人の訴えがあった時や体調不良時に居室で安静を保ったり、リビングでもソファで横になってもらうなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡帳を用いて薬の変更がある時は注意する旨を記入し周知を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれのADL、生活歴等を参考にし、その方が生活の中で役割を発揮できる場面を作れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	坂も多く、散歩をすることは難しいが、ウッドデッキで日々の散歩を楽しんでもらっている。畑に出て収穫や草取りをしてもらっている。休息用のベンチを用意して座って眺めたりできるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、現金の自己管理をしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りされる方はいないが、利用者の希望に応じ、電話を取り次ぐ等を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では季節感ある掲示物を飾ったりしている。また利用者様がつくられた作品を掲示するなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のその時の心境の変化に対応してリビングでの座る場所を変えてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から愛用されている物があれば持ってきて頂き、居心地の良い環境づくりに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り、居室の扉に名前を付けたり、トイレを知らせるプレートを設置している		